

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語能力試験レベルN3以上の日本語学習者による日本語の「撥音」の訛りの特徴・傾向
Author(s)	ミン, ジェシー
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 35期 : 68 - 75
Issue Date	2020-10-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050143
Right	
Relation	



日本語能力試験レベル N3 以上の日本語学習者 による日本語の「撥音」の訛りの特徴・傾向

ミン・ジェシー

キーワード：

第二言語習得、鼻音、鼻母音、第二言語学習者、外国人訛り、発音、音声学、発音問題

1. はじめに

母語話者の聞き手は強い訛りのある発話に抱くイメージや印象の傾向は負であるため（金菊熙、2009）外国人訛りはすべての外国語学習者が感心する問題である。

外国語教育の現場での音声指導が後回しにされてしまう現状（福井貴代美、2008）、発音問題に焦点を当てることには価値があると筆者は考えている。本研究は学習者の最も発音しにくい撥音を見つけることを目標とする。

2. 先行研究

2.1. 日本語の撥音/N/

日本語撥音/N/の調音位置は後続音声により変化する。撥音は後続する子音と同じ調音位置の音に変化する同化の事例になる。そして、後続母音の前後位置を取る鼻母音として実現される。つまり、日本語撥音は前後の音に影響されて元の音が変わる。

後続音声のない語尾/N/の場合、「前舌母音の直後では軟口蓋鼻音となり後舌母音の直後では口蓋垂鼻音となる」（吐師、小玉、三浦、大門、高倉、林、2014）

2.2. 鼻音の種類

日本語の撥音は音声的には後続音により両唇鼻音「m」、歯茎鼻音「n」、硬口蓋鼻音「ɲ」、軟口蓋鼻音「ŋ」、口蓋垂鼻音「N」あるいは鼻母音などが現れる。

図4-1 口腔断面図

口腔断面図	読み方のポイント		調音点					その他の断面図
	①口腔	②鼻腔への通路	両唇	歯茎	歯茎硬口蓋	硬口蓋	軟口蓋	口蓋垂鼻音
鼻音	開いている 閉鎖		[m]	[n]	[ɲ]	★調音点は、硬口蓋のこともある。	[ŋ]	[N]

図1 出典：日本語の基礎を学ぼう

表 2 : 発音規則

撥音の発音規則

子音・母音の類型 (IPA表記)	音声環境	例
口蓋垂鼻音 (ŋ)	「ン」で言い切りになる場合は口蓋垂鼻音が普通だが、ぞんざいな発音では鼻母音になることもある	本
歯茎鼻音 (n)	次にt/d/n/rが続くとき	本棚 (ホンダナ)
両唇鼻音 (m)	次にm/p/bが続くとき	本箱 (ホンバコ)
軟口蓋鼻音 (ŋ)	次にk/g/ŋが続くとき	本会議 (ホンカイギ)
(歯茎) 硬口蓋鼻音 ・そり舌鼻音 (n)	に・にゃ・にゅ・によが後続するとき	本人 (ホンニン)
鼻母音	ア、ワ、ヤ、サ行が日本語の発音に後続する場合に起こることが多い	本屋 (ホンヤ)

日本語の撥音はいろいろな形として現れる。文字の「ん」が同じだとしても、発音が同じわけじゃないことが理解できる。日本語文字体系は音韻を反映しないので、日本語学習者にとって撥音を含む言葉を発音することが難しいだろう。

2.3. 外国語の音韻論：第一言語特有の干渉

2.3.1. 中国語

中国人日本語学習者は撥音を含む音節を中国語にある音節で代用する傾向がある(中東、2003、p. 2)。

中東 (2003) は日本に在住する中国人日本語学習者 31 人に対して調査を行なった。参加者は撥音を含む単語およびそれを含む短文を二度読み上げた。

2.3.1.2. 撥音の後続音が両唇子音の場合

後続音が両唇鼻音の場合、日本語の撥音として「m」が現れるのが普通だ。中東の調査結果 (2003、p. 4) によって、撥音の後続音が両唇子音の場合、「m」が現れる頻度が最も高いが「ŋ」も比較的多く認められ、「n」も若干数現れたことがわかった。

中東 (2003) :

「北京語などには「-m」は存在しないが撥音に先行する母音が/i/、/e/、/a/、/u/の場合、日本語の[-im-]、[-em-]、[-am-]、[-u m-]に近い音として、中国語(北京語)には、それぞれ、/-iən/ (「因」[i^ən]...)、/-ian/ (「鉛」[i^ən]...)、/-an/ (「安」[an]...)、/-uən/ (「温」[u^ən]...)の音節があり、これらの音節末鼻音/-n/は両唇子音が後続する場合、逆行同化により[-m]として実現される。つまり、音素として/-m/はなくても、具体音声として音節末に[-m]の現れる音が存在するのである。しかし、先行母音が/o/の場合、日本語の[-om-]に近い音として現れる/-n/を伴う音節は中国語にはなく、/-ŋ/を伴う/uəŋ/ (「翁」[uəŋ])、「工」[gŋ]...)に現れる[uəŋ] や[uŋ]が音声的にはかなり近い。そしてこれらの[-ŋ]は逆行同化により「-m」となることはない。」

従って、中国語母語話者は母語干渉により先行母音が/o/の場合。「m」ではなく、「ŋ」の音を出す傾向もあるだろう。

中東(2003, p. 5)によると、先行母音が/a/や/u/の場合にも「ŋ」の出現が見られる。母音が前寄りの/a/に近い場合には[m]の出現が多く、後寄りの/a/に近い場合には「ŋ」の現れることが多かった。/u/が前寄りの撥音で撥音された場合に、[m]で現れることが多く、後寄りの場合に[ŋ]として現れることが多い。

2.3.1.3. 後続音が歯茎子音・後部歯茎子音の場合

中東の実験(2003, p. 5)によると、後続音が歯茎子音・後部歯茎子音の場合、学習者の音声は日本語母語話者と同様、歯茎鼻音/n/が現れることが最も多い。しかし、歯茎子音・後部歯茎子音の先行母音が/o/, /a/の場合には「ŋ」の出現頻度もかなり高いことがわかる。これは両唇鼻音と場合と同じ、日本語の「-on-」に近い音は中国語になく、「ŋ」を伴う「uəŋ」や「uŋ」が音声的に近い。そして、先行母音が後寄りの/a/に近い場合にはŋの現れることが多い。

2.3.1.4. 後続音が硬口蓋音の場合

後続音が硬口蓋子音の場合、日本語の撥音は「ɲ」として現れることが多い。中国人学習者の音声も「ɲ」として実現する頻度が高い。しかし、行母音が/o/, /a/の場合には「ŋ」で実現されることもある(中東 2003, p. 6)。

2.3.1.5. 後続音が軟口蓋子音の場合

後続音が硬口蓋子音の場合、日本語の撥音は「ŋ」として現れる。中東(2003, p. 7)の実験に参加した中国人学習者は先行母音にかかわらず「ŋ」を撥音する。この音声は中国人にとって困難ではないと中東が考えた。

2.3.1.6. 語末の場合

日本語の語末撥音は通常、口蓋垂鼻音「N」になる。しかし、中東(2003, p. 8)の実験結果によると、語末の場合に口蓋垂鼻音「N」が全く学習者の音声に観察されなかった。代

わりに学習者の音声には「n」あるいは「ŋ」が現れた。中国語に口蓋垂鼻音「N」がないので、母語に存在する音声が付用されている。

2.3.1.7. 後続音が母音、半母音、摩擦子音の場合

この場合、撥音は鼻母音として現れる。中東の実験結果により、学習者の音声には鼻母音、[n]、「ŋ」の3種が現れる。北京語などには鼻母音音素は存在しないが、ある音声状態で鼻母音が現れるので、母語に現れる鼻母音を日本語に代用できる(中東 2003, p.9)。

2.3.2. 英語母語話者の場合

中川(1996)の研究によって、英語母語話者が撥音を発音するときに、「撥音(ん)の後ろの母音が[n]になる」問題が見られる。「日本の「ん」は語末では舌が歯茎につく「ん」でなく、下が口腔の中央に位置する母音に近い音であるが、「ん」がローマ字で/n/と表記されることも影響してか、舌を歯茎に軽く触れてしまうケースが多く見られる。」

そして、英語母語話者に撥音の長さが不十分であること、拍の長さが不均等である問題も見られる。(北村美樹 online: J-POPの音韻的考察)によると:「日本語と英語では単語を分節する単位が異なる。すなわち一つの音として認識する単位が異なる。日本語はモーラ単位、英語は音節単位で単語を分節している。音節とは、基本的に母音を中心とする音のまとまりである。すなわち、母音のまわりに子音が群がってできた単位である。」英語母語話者は一つの子音/N/を音節として認識しないため、日本語の撥音を発音するときに母語の特徴が現れ、独立して一拍に数えられる撥音を速く発音することがある。

・音節とモーラの数え方がずれる例

撥音「寒天(かんてん)」の場合
音節で区切ると、[kan. ten]となり、母音[a]と[e]を持った2音節になる。モーラで区切ると、[ka.n. te.n]の4モーラとなり、[n]も一人前のモーラとして扱われる。

3. 実験・調査方法

日本語能力試験N3以上の日本語学習者を対象としてググルフォームでアンケートを行った。アンケートは学習者の母語、学習開始年齢、学習期間、日本語能力試験(JLPT)レベル、日本滞在期間の有無と長さ、発音の学習方法、発音への重視(五段階評価)について質問をした。

それを記入した上で、研究参加者は撥音を含む短文のリストを読み上げた。リストにAからOまで、15の英語文字に整理された四行ずつの短文がある。Aは硬口蓋鼻音[n]を含んだ句であり、Bは口蓋垂鼻音[N]、Cは軟口蓋鼻音[ŋ]、Dは歯茎鼻音[n]、Eは両唇鼻音[m]、FからN記号は鼻母音と半母音の種類[あ、い、う、え、お、わ、や、ゆ、よ]であって、最後のO記号はサ行の摩擦音[鼻母音か歯茎音]を含む短い句である。全部は60行である。参加者が読みやすいため、句にあるN4レベル以上の漢字は

フリガナがつけられている。そして、各句はできる限り一つの鼻音・鼻母音に抑えられている。

例： C3. 小さな金魚 F3. その店員

発話者は日本語学習者7名（男性3名，女性4名）を用いた。発話者の母語の内訳は英語2名，中国語3，ベトナム語1名，ジャワ語1名，インドネシア語2名であった。二人は複数の母語（中国語と英語、インドネシア語とジャワ語）がある。

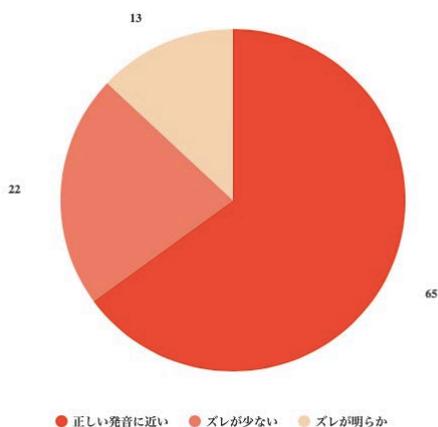


図3. 正確に発音する割合

✓だけがついているものは許容範囲にある発音(acceptable pronunciation)で、左に書いてある発音に近いもの

例：

句	正しいIPA記号	受験者のIPA記号
B4. 厳しい条件	ḃ̃zo:keŋ	✓
C1. 残業です	ḃ̃zanj'g'o:	✓
C2. みたらし団子	dango	✓

✓とIPAが書いてあるのは許容範囲にある発音(acceptable pronunciation)で、左に書いてある発音とは少し違うもの

例：

句	正しいIPA記号	受験者のIPA記号
K4. 古本屋で買った	xuɾuhoũi̯a	✓xuɾuhoũj̯a
M1. 今日は金曜日	ciŋo:bi̯	✓ciŋ'ɔ:bi
M2. 漢字の音読み	oũj̯om'i̯	✓oũyom'i̯

IPAだけが書いてあるのは、日本語としては明らかに不自然なものです

例：

句	正しいIPA記号	受験者のIPA記号
H2.本を読む人	ho̞o	hōo
H3.線を切る	sẽ̞o	sēo
I1.暗鬱な気分	aũ̞̃suna	aũ̞̃suna

受験者のミスが発生する状況や原因、発音への全般的なコメント

例：全般的に語末母音の持続時間が十分でない。全般的に鼻母音がきれいに使えている。アクセント、長音の持続時間の問題でおかしく聞こえる。

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するために、収録方法としては受験者自らで録音する。その録音を日本語の音声学について指導を受けたことがある教師に送る。その教師は学習者の音読に対して、フィードバックを与える。フィードバックは以上四つの種類がある。

4. 実験結果・分析

受験者は平均読み上げた65%の短文にある鼻音を正確に発音し、22%を少し間違えた発音で読み上げ、13%の鼻音をとても不自然な発音で読み上げる。

こう見れば、日本語能力試験N2以上を合格した参加者にとって日本語の撥音/N/は撥音しにくい音と見られる。

4.1. 母語干渉

英語母語話者の結果を見れば、最も頻繁的に起こる問題は鼻母音の代わりに歯茎鼻音[n]と軟口蓋鼻音[ŋ]が現れることだ。つまり、全員（ゼンイン）のような鼻母音が含まれた単語はゼニン・ゼンニンになる傾向がある。日本語の撥音[ん]をローマ字で表記される場合に[n]になるので、英語母語話者が誤読する恐れが高い。そして、中国母語話者の場合、鼻母音は上手に使えているが、鼻母音の種類が異なることが見られている。

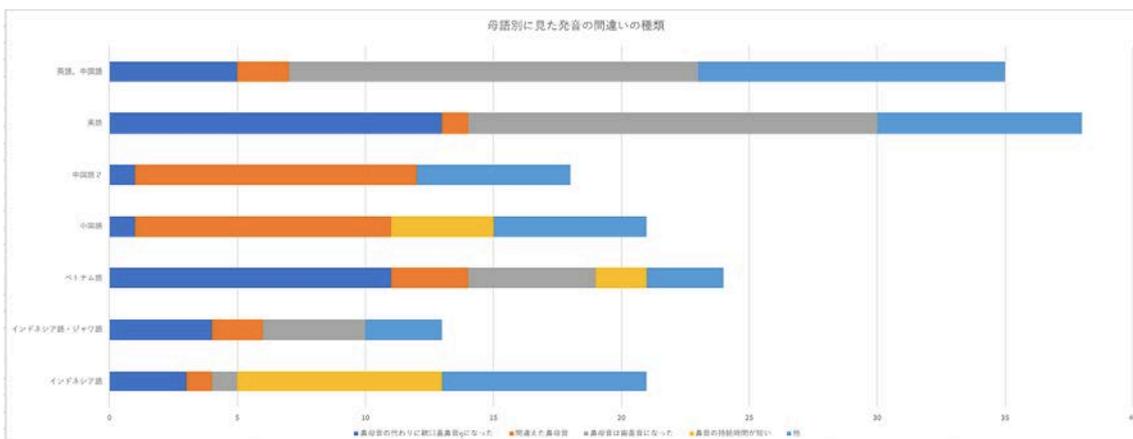


図4：母語別に分けられた結果

表5. 学習者の問題点と例(頻度の高い順に掲載されている)

問題点	句	正しいIPA記号	受験者の回答のIPA記号
鼻母音の代わりに軟口蓋鼻音になる	F2.正確な音韻	oũĩĩŋ ^h oũĩũ	oŋ ^h ĩŋ ^h
鼻母音は歯茎音になる	I1.暗鬱な気分	aũũtsuna	annũtsuna
撥音部分の鼻音の持続時間が短い	G2. 禁煙場所	ciũĩĩmbaço	ciĩĩmbaço
間違えた鼻母音	H2.本を読む人	hoũo	hoũo
口蓋垂鼻音が軟口蓋音になる	B1. 焼きそばパン	paŋ	ʒpaŋ
軟口蓋鼻音の代わりに鼻母音になる	L2.運輸システム	uŋ ^h ũ	ʒuũyu:
硬口蓋音が軟口蓋音になる	C3. 小さな金魚	k ^h ĩŋg ^h o	ʒk ^h ĩŋg ^h o
脱鼻音化のタイミングが早い	F1.私の本意	hoũĩĩ	ʒhoũũĩ
口蓋垂鼻音の代わりに鼻母音になる	B1. 焼きそばパン	paŋ	ʒpaũ
軟口蓋破裂音性が少ない	C1. 残業です	d̪zãŋg ^h o:	ʒd̪zãŋg ^h o:
鼻音性が少ない	K3.鉄板焼き料理	teppaũjãk ^h i	teppaũjãk ^h i
硬口蓋化が少ない	C1. 残業です	d̪zãŋg ^h o:	ʒd̪zãŋg ^h o:
鼻母音の代わりに硬口蓋鼻音になる	K4.古本屋で買った	xũũruhoũĩĩa	ʒfũũruhoŋjã

実験によって、学習者の音声に13の種類が発音問題が見つけられた。以上の結果に見られる日本語能力試験レベルN1、N2の日本語学習者の発音の特徴・傾向は：

- ・母音間の鼻母音の代わりに歯茎鼻音[n]か軟口蓋鼻音[ɲ]が現れること
- ・鼻音の持続時間が短いこと

従って、撥音の中で学習者にとって最も発音しにくい鼻音種類は鼻母音であることを示している。

おわりに

筆者は日本語音声学の素人でありながら、日本語学習者が面する発音上の困難の原因を調べるためにこの研究を始めた。この実験によって、全体的な発音の傾向と最も頻繁的に起こる問題も見つけた。少数の参加者数なので結果の信頼性が低いが、中国語母語話者と英語母語話者の参加者の音声的なバリエーションと傾向は先行研究と共通点がいくつかあった。中国語母語話者は口蓋垂鼻音の代わりに母語に存在する軟口蓋鼻音、鼻母音を使用することもあり、軟口蓋鼻音の使用も多かった。そして、英語母語話者の方は撥音の長さ、鼻母音の発音の問題が見られた。母語干渉があることが判明でき、有意義な結果が得た。日本語と母語の音声規則の特徴を意識して比較すれば、学習者の発音の向上にとって有益な情報になると筆者は考えている。

引用文献

1. 福井貴代美(2008). 日本語学習者の韻律の習得に教室内指導が果たす役割——複合語のアクセントを例にして『日本語教育と音声』233-260.
2. 金菊熙(2009). 外国人訛りに対する母語話者の反応. *言語情報科学*, 7, 109-123.
3. 吐師道子, 小玉明菜, 三浦貴生, 大門正太郎, 高倉祐樹, & 林良子(2014). 日本語語尾撥音の調音実態: X線マイクロビーム日本語発話データベースを用いて (〈特集〉調音音声学: 日本語を中心に). *音声研究*, 18(2), 95-105.
4. 日本語の基礎を学ぼう (n.d.) .Retrieved August 19, 2020 from <http://learn-the-basics-of-japanese.blogspot.com/p/1-1-1-2foot.html>
5. Nakatou, Y. (2003). 中国人日本語学習者における撥音の音声実現: 学習者音声の実態とその音声的バリエーション. *言語文化と日本語教育*, (25), 1-12.
6. 中川かず子(1996). 英語母語話者による日本語の音声(韻律)の習得に向けて. Retrieved from <http://hokuga.hgu.jp/dspace/bitstream/123456789/1261/1/JINBUN-7-5.pdf>
7. 北村美樹(2006). J-POPの音韻的考察. *中京英文学*, 26, 1-23. Retrieved from <http://www.chukyoiebei.org/egakkai/topics/bun/eibungaku26/kitamura26.HTM>